

## 誌・紙

### 1900年 『イスクラ』（『火花』）の発行（1900.12.11～）

1900年にレーニンが創設した最初の全国的なマルクス主義的非合法新聞。革命的マルクス主義者のこの戦闘的機関紙の創刊は、「その当時、党の当面していたもろもろの環の鎖ともろもろの任務の鎖のなかで、基本的な環であり、基本的な任務であった」（スターリン）

警察の追及が激しくてロシア国内で革命的新聞を発行することが不可能だったので、レーニンはまだシベリアの流刑地にいたあいだに、これを国外で発行する計画をくわしく考えぬいた。一九〇〇年一月に流刑がおわると、レーニンはすぐさま自分の計画の実現にとりかかった。

レーニンの『イスクラ』の第一号は一九〇〇年十二月十一日（二十四日）ライブチヒで発行され、それにつづく諸号はミュンヘンで、一九〇二年四月以降はロンドンで、一九〇三年の春以後はジュネーヴで、発行された。

『イスクラ』編集局には、ヴェ・イ・レーニン、ゲ・ヴェ・プレハーノフ、ユ・オ・マルトフ、ペ・ベ・アクセリロード、ア・エヌ・ポトレソフおよびヴェ・イ・ザスーリッチがはいっていた。編集局の書記には、一九〇一年の春以後、エヌ・カ・クルプスカヤがなった。レーニンは事実上『イスクラ』の編集主筆であり、指導者であった。彼は『イスクラ』紙上に、党建設とプロレタリアートの階級闘争のあらゆる基本問題について論文を書き、国際生活のもっとも重要な諸事件にたいして反応した。

ロシアの幾多の都市（ペテルブルグ、モスクワ、等）に、レーニンの「イスクラ」派に属するロシア社会民主労働党のグループや委員会が創設された。外カフカーズで『イスクラ』の思想をまもりぬいたのは『ブルドゾーラ』（『闘争』）であって、これは、チフリスの社会民主主義組織、そのレーニンの「イスクラ」グループの最初の非合法のグルジア語新聞であった。外カフカーズにおけるレーニンの「イスクラ」組織の創設者であり指導者であったのは、イ・ヴェ・スターリンのほか、ヴェ・ゼ・ケツホヴェリ、ア・ゲ・ツルキッゼ、ヴェ・カ・クルナトフスキーであった。

各地の「イスクラ」組織は、レーニンとスターリンとによってそだてあげられた職業革命家たち（エヌ・エ・バウマン、イ・ヴェ・バーブシキン、エス・イ・グセフ、エム・イ・カーニン、等）の直接の指導のもとに成立し、活動した。

『イスクラ』編集局は、レーニンの提唱により、また彼の直接の参加のもとに、党綱領草案（『イスクラ』第二号に発表）を作成し、ロシア社会民主労働党第二回大会を準備した。この大会は一九〇三年七～八月にひらかれた。この大会の召集されるまでには、ロシアの地方の社会民主主義組織の大多数が「イスクラ」派に合流し、その戦術、綱領、組織計画を承認し、『イスクラ』を自分たちの指導的機関紙とみとめていた。大会は特別決定で党建設のための闘争における『イスクラ』のなみなみならぬ役割を指摘し、これをロシア社会民主労働党の中央機関紙と宣言した。

第二回大会ではレーニン、プレハーノフ、マルトフから構成される編集局が確認された。マルトフが党大会の決定に反して編集局にはいることを拒否したので、『イスクラ』第4

6～51号は、レーニンとプレハーノフの編集で発行された。その後プレハーノフは、メンシェヴィズムの立場にうつって、大会によってしりぞけられたメンシェヴィキ派の旧編集局の全員を『イスクラ』編集局にくわえるように要求した。レーニンはそれに同意することができなかつたので、党中央委員会内で地歩をかため、この陣地からメンシェヴィキ的日和見主義者を打つために、1903年10月19日（11月1日）に『イスクラ』編集局から脱退した。第52号は、プレハーノフ一人の編集で出された。1903年11月13日（26日）、プレハーノフは独断で、大会の意志に違反して、『イスクラ』編集局にその以前のメンシェヴィキ的編集局員たちを補充した。第52号以後は、メンシェヴィキは『イスクラ』を自分たちの機関紙にかえてしまった。（「このときから党内では、レーニンのボリシェヴィキ的『イスクラ』を旧『イスクラ』と呼び、メンシェヴィキ的日和見主義的『イスクラ』を新『イスクラ』と呼ぶようになった。」『ソ同盟共産党小史』、国民文庫版、第一冊、七七ページ）

第七巻 P583-585

「イスクラ」組織 ——イスクラ派のサークルの一つ。イスクラ派というばあい、それは、あるサークルの一員のことではなく、新聞『イスクラ』に代表されるある特定の傾向の味方のことを意味するにすぎなかつた。

第七巻 P585

#### 『フペリョード』（『前進』）

——ボリシェヴィキの非合法週刊新聞で、一九〇四年十二月二十二日（1905年1月4日）から1905年5月5（18）日まで、ジュネーヴで発行されていた。全部で18号出た。この新聞の組織者であり、思想的鼓舞者であり、指導者であつたのは、レーニンであつた。編集局員としては、ヴェ・ヴェ・ヴォロフスキー、エム・エス・オリミンスキー、ア・ヴェ・ルナチャルスキーがいた。

1905年4月12～27日（4月25日～5月10日）にひらかれた第三回党大会は、特別の決議で、『フペリョード』がメンシェヴィキとの闘争において党性の復活のためにたたかい、また、はじまつた革命の提起した問題を取りあげて解明したという、この新聞のすぐれた役割を指摘し、編集局に感謝の意を表明した。

『フペリョード』には、四〇以上にのぼるレーニンの論文や記事が発表された。いくつかの号——たとえば、1905年1月9（22）日の事件にあてられている第四号と第五号——は、ほとんどまったくレーニンひとりの筆で編集された。

『フペリョード』はロシア国内の党組織と恒常的な結びつきをもつていた。とくに緊密な結びつきがあつたのは、イ・ヴェ・スターリンとエム・ゲ・ツハカーヤの指導する、党カフカーズ連合委員会であつた。この委員会は、レーニンの『フペリョード』を支援するために、特別の文筆家グループをつくつた。最初の数号を受けとつた委員会は、カフカーズのために三カ国語で『フペリョード』の翻訳版を出すことの適否についてレーニンに照会し、レーニンは翻訳版を出すことに同意した。しかし実際には、連合委員会は翻訳版の出版を実現できなかつた。

『フペリョード』にのつたレーニンの論文は、しばしばボリシェヴィキの地方機関紙に転載され、また単行のリーフレットや小冊子としても出版された。

## 『パルチーヌイエ・イズヴェスチャ』

第15巻 事項訳注 P491

ロシア社会民主労働党合同中央委員会の機関紙。第四回（統一）党大会の直前にペテルブルグで非合法に発行された。1906年4月7日（20）日号と3月20日（4月2日）号の二号だけ出た。編集局は、ポリシェヴィキの機関紙（『プロレタリー』）とメンシェヴィキの機関紙（新『イスクラ』）とから、同数の編集局員が出て構成された。ポリシェヴィキからは、レーニン、ルナチャルスキーその他がくわわった。第四回（統一）党大会後は、ポリシェヴィキとメンシェヴィキがそれぞれ自分の機関紙を出すようになったので、『パルチーヌイエ・イズヴェスチャ』の刊行は停止された。

## 『プロレダリー』

第四回（統一）党大会後にポリシェヴィキが創刊した非合法新聞。1906年8月21日（9月3日）から1909年11月28日（12月11日）まで、レーニンの編集のもとに発行されていた。『プロレタリー』はモスクワ委員会とペテルブルグ委員会の——また一時は、モスクワ近接地域、ペルミ、クルスク、カザンの諸委員会の——機関紙となっていたが、事実上、ポリシェヴィキの中央機関紙であった。はじめの二〇号はフィンランドで発行された。1908年2月13日（26）日から12月1日（14）日まではジュネーヴで、1909年1月8日（21）日からはパリで発行された。

『プロレタリー』には、レーニンの論文や短評が100以上も掲載された。ストルイピン反動期には、『プロレタリー』は、ポリシェヴィキ組織を維持し強化するうえで、すぐれた役割を演じた。第二国会の選挙のときには、党のペテルブルグ委員会は毎号ほぼ四千部の『プロレタリー』を労働者のあいだにながした。党生活にかんするいくつかの論文は、スターリンの指導のもとにチフリスで発行されていた、カフカーズのポリシェヴィキの新聞『チヴェニ・ツホヴレバ』（『われわれの生活』）と『ドロー』に転載された。

1910年1月の党中央委員会総会で、トロツキーの秘密の手先で助力者である「調停主義者」は、この新聞を閉鎖する決定をとおすのに成功した。

## ロシア社会民主労働党中央機関紙、『ソツィアル-デモクラート』（『社会民主主義者』）

ロシア社会民主労働党の中央機関紙、非合法新聞。1908年2月から1917年1月まで発行されていた。全部で58号出た。第1号はロシア国内で出されたが、その後、出版は国外にうつされ、はじめはパリで、のちにはジュネーヴで発行された。中央機関紙編集局は、党中央委員会の決定によって、ポリシェヴィキとメンシェヴィキとポーランド社会民主党の代表から構成された。『ソツィアル-デモクラート』には、レーニンの論文や記事が80以上も掲載された。編集局内で、レーニンは一貫したポリシェヴィキの方針をまもってたたかった。編集局の一部のポリシェヴィキ（カーメネフとジノーヴィエフ）は、解党派にたいして調停的な態度をとり、レーニンの方針の遂行を挫析させようと試みた。メンシェヴィキの編集局員マルトフとダンは、編集局内での活動をサボタージュすると同時に、他方では、『ゴーロス・ソツィアル-デモクラータ』（『社会民主主義者の声』）で解党主義を

公然と擁護した。レーニンが解党派にたいして容赦ない闘争を行った結果、1911年6月に、マルトフとダンは『ソツィアルデモクラート』編集局から退いた。同年12月から、『ソツィアルデモクラート』はレーニンによって編集された。

第一次世界大戦の初期に、レーニンは、いままで一年間中断されていたこの新聞の復刊に成功した。1914年11月1日（新暦）に、本紙の第33号が出たが、これには、レーニンの書いたロシア社会民主労働党中央委員会の宣言が掲載された。戦争中にこの新聞に発表されたレーニンの諸論文は、戦争と平和と革命の問題についてのボリシェヴィキ党の戦略と戦術を実現するための闘争で、また、公然、隠然の社会排外主義者を暴露し、国際労働運動における国際主義的分子を結集するうえで、すぐれた役割を演じた。

この新聞にはスターリンの論文も多数発表された。 第17巻、第22巻 事項訳注

『イズヴェスチヤ』 — 『ペトロダラード労働者・兵士代表ソヴェト通報』のこと。

日刊新聞、1917年2月28日（三月十三日）に発刊された。労働者・兵士代表ソヴェト第一回全ロシア大会でソヴェトの中央執行委員会が創設されてからはその機関紙となり、1917年8月1（十四）日づけの第132号からは『中央執行委員会およびペトロダラード労働者・兵士代表ソヴェト週報』と改称された。この時期には、本紙はメンシェヴィキとエス・エル的手中にあり、ボリシェヴィキ党に反対して必死の闘争を行っていた。第二回全ロシア・ソヴェト大会後の1917年10月27日（十一月九日）からは、『イズヴェスチヤ』（普通は略してこう呼ばれている）は、ソヴェト権力の公式の機関紙となった。1918年3月に全ロシア中央執行委員会と人民委員会議がモスクワへ移転したので、同紙の発行地もペトロダラードからモスクワへうつされた。 第25巻、事項訳注 P535-536